

令和8年度 八代市立第八中学校 校内研修計画

1 校内研修 研究テーマ

「能動的に学び続ける生徒の育成」

～学びのスタイル「み・む・ろ・や・ま」とハ中型授業「学びの^{エイト}8サイクル」の実践を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

近年、AI 技術の急速な発展、少子高齢化に伴う社会構造の変化、さらには国際情勢の不安定化によって生じるエネルギー・経済問題など、私たちを取り巻く社会はこれまで以上に予測困難な時代へと突入している。こうした変化は、将来を生きる子供たちにとって、単に知識を身に付けるだけでは対応しきれない複雑で多様な課題を生み出している。

このような時代においては、中学校3年間で習得する知識のみで将来を切り拓くことは難しく、自ら課題を見だし、他者と協働しながら主体的に学び続け、生涯にわたって自分自身をアップデートし続ける力が不可欠となる。言い換えれば、「学び続ける力」そのものが、変化の激しい社会を生き抜くための最も重要な基盤となっている。

学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」や「学びに向かう力」は、まさにこのような社会的要請に応えるために位置付けられた資質・能力である。基礎的・基本的な内容の確実な定着を土台としながら、学びを自ら更新し続ける姿勢を育むことこそが、これからの教育に求められる重要な課題である。

以上のような社会的背景を踏まえると、学校教育には、従来の知識伝達型の授業にとどまらず、指導の改善や創意工夫を積極的に図り、生徒一人一人の問題解決能力や自主性、思考力を育む授業実践がこれまで以上に求められている。変化の激しい社会を生き抜くために必要な「能動的に学び続ける力」を育成することは、まさに現代的教育課題の中心に位置付けられていると言える。

こうした背景から、本校では、生徒が自らの学び方を理解し、主体的に学びを進めていくための「学びのスタイル」を明確に示すこと、そしてその学びを支える授業づくりの視点を全教科で共有することが重要であると考えた。

(2) 本校の実態から

本校では、「生徒の夢を育み、生徒と地域の未来を創造する学校～生徒一人一人の成長を実感できる教育活動を通して～」を学校教育目標に掲げ、全職員が協働して生徒のよさや可能性を見だし、それを伸ばす教育実践に取り組んでいる。生徒数が少ないという学校規模の特性を生かし、一人一人にきめ細かな指導ができる点は、本校の大きな強みである。

本校生徒は、明るく素直で、授業や学校行事、部活動などにまじめに取り組む姿勢が見られ、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、学習や諸活動に対して自ら意欲を持ち主体的に取り組むという観点から見ると、依然として課題が残る。教師や保護者からの指示を受けて初めて行動する「指示待ち」の傾向が見られる場面も多く、また、集団の中で自分の意見や感情を適切に表現することが難しい生徒も少なくない。

こうした生徒の姿は、令和7年度県学力調査 i-check や学校評価アンケートの結果からも裏付けられている。現2・3年生ともに、「自分にはよいところがある」「自分は成長している」といった自己肯定感に関する項目が低下しており、自分を肯定的に捉える力が十分に育っていない。また、仲間外れへの不安から友達に合わせるしてしまう、知らない話題に不安を感じるといった対人関係に関する不安も全国平均より高く、自己表現や協働的な学びに消極的な傾向が見られる。

さらに、「計画的に家庭学習をしている」という項目は両学年とも大きく低下しており、学習の見通しをもって取り組む力が十分に育っていないことが明らかになっている。また、学校評価アンケートでも、授業で自分の考えを伝えることや、友達との対話を通して考えを深めることに関する項目が前年度より低下しており、主体的・対話的な学びの定着が課題であることもうかがえる。

これらの課題は、学校が育成を目指す「みつめる力」「つなげる力」「みとおす力」のいずれにも深く関わる根本的な問題であり、生徒が自らの成長を実感しながら学習を進めていく上で大きな障壁となっている。特

に、基礎的・基本的な学習内容の定着や家庭学習の計画性の不足は、生徒が自信をもって学習に向かうための土台が十分に形成されていないことを示しており、能動的に学び続ける力の育成に直結する重要な課題である。

以上の学校の現状、県学調のデータが示す課題、そして社会的背景を総合的に捉えると、基礎的・基本的な内容の定着を確実に図りながら、生徒が自ら学びを更新し続ける姿勢を育むことは、本校にとって喫緊の教育課題である。

そこで本校では、生徒が主体的に学び続けるための具体的な学び方を「学びのスタイル『み・む・ろ・や・ま』」として明確化し、その姿を実現するための教師の授業づくりの視点として「八中型授業『学びの8サイクル』」を設定した。これらを研究のサブテーマとして掲げ、研究主題「能動的に学び続ける生徒の育成」の具現化を目指したい。

3 研究の仮説

〈仮説1〉

基礎的・基本的な内容を確実に定着させる授業づくりを行うことで、生徒は学習への安心感と自信を獲得し、主体的に学習に向かうことができるようになるだろう。

〈仮説2〉

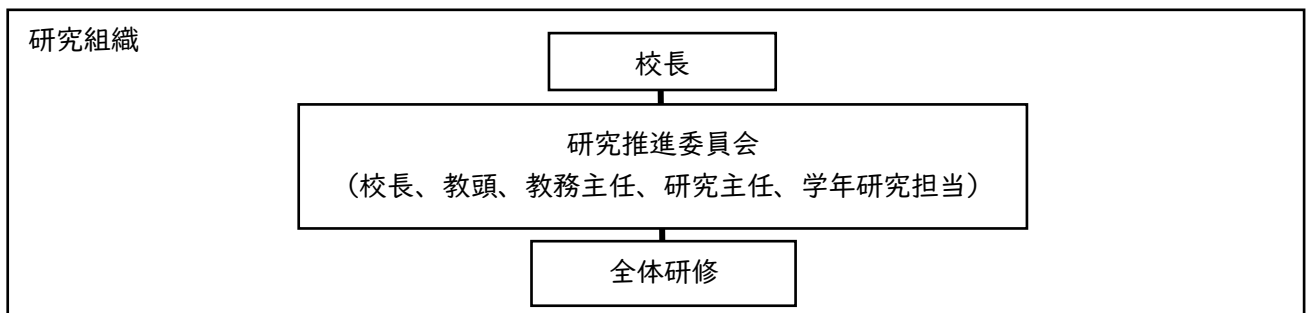
授業の中で、生徒の思考を促し、考えを深める発問を工夫することで、生徒は自分の考えを形成し、対話や協働を通して学びを広げ、次の学習へつなぐ力が育成されるだろう。

〈仮説3〉

学びの過程や成果を振り返り、次の学習へとつなげる指導を継続的に行うことで、生徒は自己の成長を実感し、能動的に学び続ける姿が育成されるだろう。

4 研究組織

研究推進委員会（校長、教頭、教務主任、研究主任、学年研究担当）を定期的で開催し、研究活動を推進していく。



5 校内研修の意義

(1) 自己課題の意識化

学校教育目標の具現化に向け校内研修を機能させ、教職員一人一人が学校全体の教育課題を自己課題として認識し、研究を深め、修養を積む。

(2) 研究授業を通じた授業改善

次のことをねらい、研究授業および事後の授業研究会を実施し、各教師の授業改善を図る。

- ア 課題を共有し、課題解決に取り組む。
- イ 各教師の実践を互いに学び合う。
- ウ 各教師の指導力を高める。
- エ 研究の成果を共有し、生徒の成長を実感する。

6 研修内容

(1) 教科等授業研究

- ・校内研究テーマに基づく研究実践を積み重ね、授業改善を図り学力向上につなげる。

(2) 教職研修（人権感覚を磨く研修・専門性を高める研修・社会性を広げる研修）

- ・各種及び各分野の研修を行い、教育活動の充実・改善を図り、豊かな心や健康・体力など生徒の健全育成につなげる。

7 研修方法

- ・全体研修の時間は水曜日を基本とする。（B日課：15：20～、D日課：16：05～）
- ・課題や取組等の共通化を図り、組織的に実践を展開する。

(1) 教科等授業研究

- ・教科等授業研究は年間一人1回以上の研究授業を行う。その後の授業研究会の反省を踏まえ、その課題改善を図る授業を行う。
- ・教科等授業研究における研究授業は、全員が参加する大研と「ミニ・来て・8サイクル」の形態での小研を行うこととする。

(2) 教職研修

- ・各校務分掌における校外研修の復講を行い、共通理解・共通実践につなげる。
- ・喫緊の課題等について外部から講師を招き、その課題解決に向けた研修を深める。

8 研究の実際

(1) 研究内容

①理論研究

- ・学習指導要領及び「熊本の学び推進プラン」の理念や方針について理解を深める
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導についての研究

②教材研究

- ・各教科で生徒の興味・関心が高まるような単元デザインや教材の開発
- ・対話的な活動における課題内容や進め方の研究

③授業研究

- ・研究の仮説に基づく日々の授業実践

(2) 具体的な取組

①各教科における授業改善（授業参観の3つの視点）

本研究を進めるにあたり、次の大きく3つの視点を重視して授業改善を図るものとする。

【視点Ⅰ】基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導の工夫

生徒が学習内容を理解し、「わかった」「できた」という実感をもつことは、学習への安心感や自信につながる。そのため、全教科共通で、基礎的・基本的な内容の確認→活用→振り返りという学習の流れを意識した授業づくりが行われているかを重視する。また、生徒の集中力を高めるための学習規律や学習環境が整えられているかも重要であり、落ち着いて学習に向かえる環境づくりが基礎的・基本的な内容の定着を支える前提となる。

【視点Ⅱ】生徒が自分の考えを表現し、対話や協働につながる授業の工夫

本校の課題である「指示待ち傾向」や「自己表現の弱さ」を改善するためには、生徒が安心して意見を述べ、友達と考えを交流しながら学びを広げていく場面を意図的に設定する必要がある。特に、対話的な活動を通して、他者と協働しながら学ぶ経験を重ねることは、主体的・対話的で深い学びの実現に不可欠であり、生徒の思考が可視化される授業となっているかを見取る。

【視点Ⅲ】学びを振り返り、次の学習へとつなげる仕掛けの工夫

生徒が自らの学習過程や成果を振り返ることで、成長を実感し、次の学習への見通しをもつことができる。特に、振り返りの場面では、「何ができるようになったか」「次にどう生かすか」を明確にし、学びを次につなげることが重要である。授業の終末や単元の節目において、振り返りが次時の学習課題や学習計画につながるような指導が行われているかを確認する。

本研究では、上記の「授業参観の3つの視点」（基礎的・基本的な内容の定着、対話・協働の充実、振り返りによる学びの深化）を基盤としつつ、生徒の学びの姿をより明確に捉えるために、生徒側の視点として「学びのスタイル『み・む・ろ・や・ま』」を設定する。

さらに、この学びのスタイルを実現するための教師の授業づくりの視点として、「八中型授業『学びの8(エイト)サイクル』」を位置づけ、全教科で共通して取り組む授業改善の枠組みとする。

【八中学びのスタイル「み・む・ろ・や・ま」】

学びのスタイル		具体的事項
み	学びのスタートを“見通す”力	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の見通しがもてているか ・基礎的・基本的な内容がわかり、学ぶ準備ができているか ・落ち着いて学べる環境があるか
む	学びに“向き合う”力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもとうとしているか ・自分の言葉で説明しようとしているか
ろ	仲間と“論じ合う”力	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と意見を交流しているか ・発問をきっかけに考えを深めているか ・他の考えと比べて広げているか
や	学びを“やりとげる”力	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の成果を振り返れているか ・「できた」「わかった」を自分で確認できているか
ま	学びを“前へ進める”力	<ul style="list-style-type: none"> ・次の学びに向けて見通しをもてているか ・自分から学ぼうとする姿があるか→家庭学習へ

【八中型授業『学びの8サイクル』】

観 点	観点の内容
① 基礎的・基本的な内容の理解と確認	基礎的・基本的な内容の理解を確かめる場面があり、確認→活用→振り返りの流れが意識されている
② 学習規律・学習環境の整備	落ち着いて学習に向かえる環境が整い、学習規律が確立されている
③ 自分の考えをもつ場面の設定	生徒が自分の考えをもつ時間・活動が設定されている
④ 対話・協働による学びの深まり	生徒同士が意見を交流し、比較・関連づけ・協働的な学びが見られる
⑤ 思考を生み出し考えを深める発問の工夫	生徒の思考を促し、考えを広げ・深める発問が行われている
⑥ 学習の過程や成果の振り返り	「何ができるようになったか」を明確にする振り返りが行われている
⑦ 次の学びへの見通しづくり	振り返りが「次にどう生かすか」につながり、次時の学習への見通しがもてている
⑧ 主体的に学ぶ姿（総合観点）	生徒が自ら学びに向かい、考えようとする姿や他者と関わる姿が見られる

以上のように、本研究では、生徒の学びの姿を「み・む・ろ・や・ま」として明確化し、その姿を実現するための教師の授業づくりの視点として「八中型授業『学びの8サイクル』」を全教科で共有する。

生徒の学びのスタイルと教師の授業改善の視点を一体的に捉えることで、研究テーマである「能動的に学び続ける生徒の育成」の具現化を図るものである。

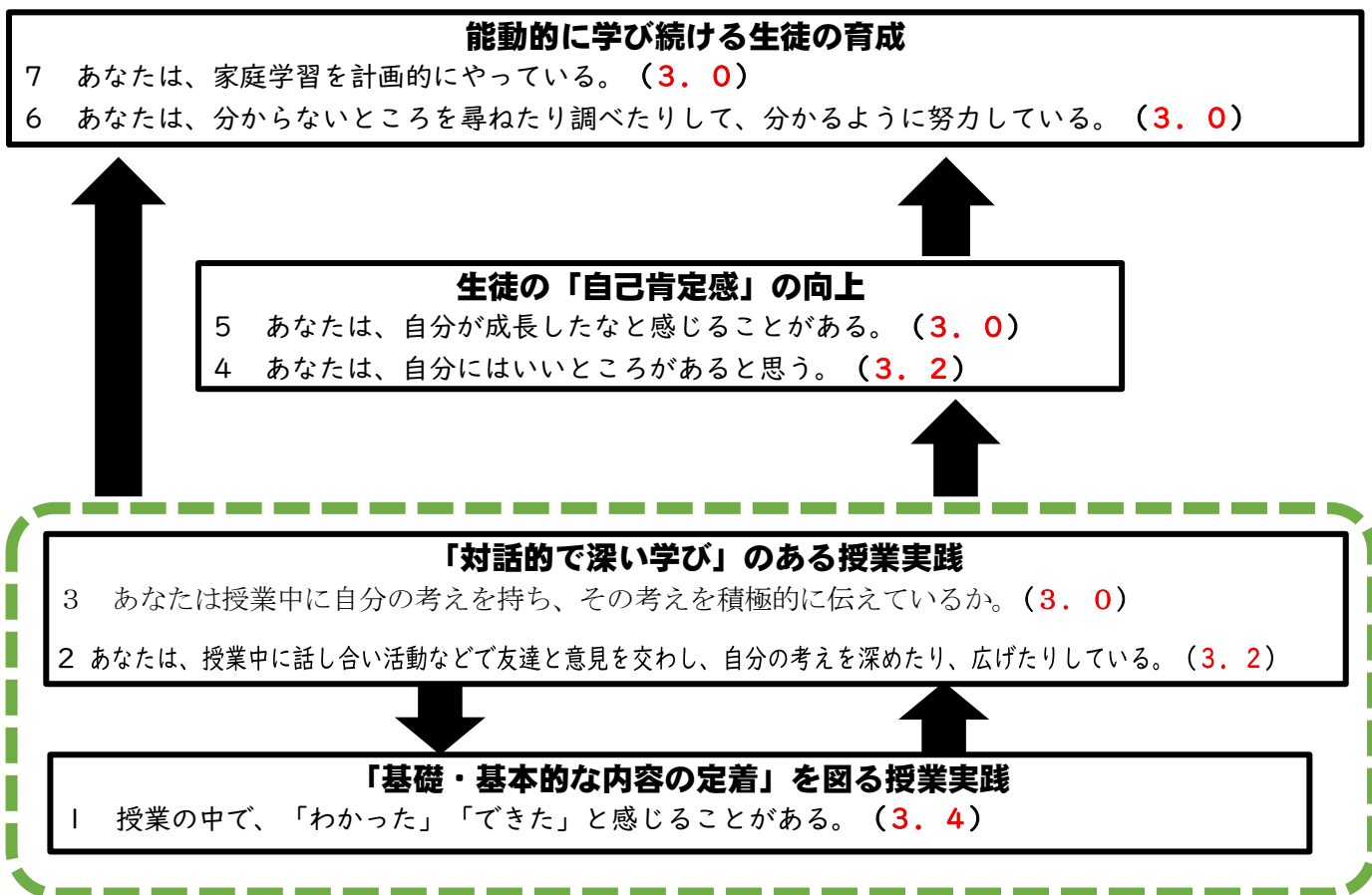
②授業研究会の在り方

協議の柱を焦点化し、教科の壁を越え、生徒の学びの視点から協議を行う。

③研究の成果

年度当初に行う生徒アンケートの結果をもとに、以下の項目の数値目標を設定し、達成を目指す。

質問項目	R8 (5月)	R8 (目標値)
1 授業の中で、「わかった」「できた」と感じることもある。(深い学び)	3.33	3.4
2 あなたは、授業中に話し合い活動などで友達と意見を交わし、自分の考えを深めたり、広げたりしている。(対話的で深い学び)	3.00	3.2
3 あなたは授業中に自分の考えを持ち、その考えを積極的に伝えているか。(タブレット・ペア・グループも含む) (対話的で深い学び)	2.97	3.0
5 あなたは、自分が成長したなど感じることもある。(自己肯定感)	3.12	3.2
4 あなたは、自分にはいいところがあると思う。(自己肯定感)	2.95	3.0
6 あなたは、分からないところを尋ねたり調べたりして、分かるように努力している。(能動的)	2.87	3.0
7 あなたは、家庭学習を計画的にやっている。(能動的)	2.80	3.0



令和8年度 第八中学校 校内研究構想図

学校教育目標

生徒の夢を育み、生徒と地域の未来を創造する学校
～生徒一人一人の成長を実感できる教育活動を通して～

めざす生徒像

「夢実現に取り組む生徒」 「お互いを尊重する生徒」 「郷土宮地を愛する生徒」

校内研究テーマ

「能動的に学び続ける生徒の育成」

～学びのスタイル「み・む・ろ・や・ま」と八中^{エイト}型授業「学びの8サイクル」の実践を通して～

研究の仮説

- 仮説1 基礎・基本を確実に定着させる授業づくりを行うことで、生徒は学習への安心感と自信を獲得し、主体的に学習に向かうことができるようになるだろう。
- 仮説2 授業の中で、生徒の思考を生み出し深める発問を工夫することで、生徒は自分の考えを形成し、対話や協働を通して学びを広げ、次の学習へつなぐ力が育成されるだろう。
- 仮説3 学びの過程や成果を振り返り、次の学習へとつなげる指導を継続的に行うことで、生徒は自己の成長を実感し、能動的に学び続ける姿が育成されるだろう。

学習スタイル「み・む・ろ・や・ま」の実践

学習スタイル「み・む・ろ・や・ま」

み（見通す）：基礎・基本・環境

む（向き合う）：自分の考えをもつ

ろ（論じ合う）：対話・発問で深める

や（やりとげる）：振り返り

ま（前へ進む）：次の学びへつなぐ・主体性

「八中学びの8サイクル」

- ① 基礎・基本の理解確認
- ② 学習規律・学習環境の整備
- ③ 自分の考えをもつ場面の設定
- ④ 対話・協働による学びの深まり
- ⑤ 思考を生み出し深める発問の工夫
- ⑥ 学習の過程や成果の振り返り
- ⑦ 次の学びへの見通しづくり
- ⑧ 主体的に学ぶ姿（総合観点）

八中型授業『学びの8サイクル』の実践

支持的風土ある学級づくり

教師の願い

- ・自分の夢をもち、能動的に学び続ける生徒の育成
- ・基礎・基本の定着を図り、その土台の上で学びを更新し続ける力の育成
- ・学習の中で「考える力」「判断力」「表現力」を育む授業づくり

生徒の実態

- ・指示されたことには真面目に取り組むが、主体的に学ぶ姿勢が不十分
- ・協働的な学習の経験不足、及び学び合いのスキルの定着が不十分
- ・学習の中で新しいことを発見したり、多様な見方や考え方をしたりするのが苦手